

令和 8 年度大分川・大野川学識者懇談会 議事概要

日時：令和 8 年 8 月 6 日（木）10：00～12：00

場所：大分河川国道事務所 別館第 1, 2, 3 会議室

【出席者】

島田委員長、佐藤委員、飯沼委員、大上委員、本谷委員、細井委員

◆：委員、●：事務局

【大分川水系河川整備計画の事業評価について】

◆：残土処分方法及び費用の内訳について確認

●：大分川の既存工事における処分先での処分単価（令和 7 年）は約 1,500 円/m³ に対して、今回の約 39 万 m³ に同単価を乗じた結果、約 7.7 億円となります。なお、今後、他工事等への流用調整が成立した場合は、その分のコスト削減が可能となります。

◆：河川掘削形状の変更について、護岸追加の必要性確認

●：整備計画当初の図面では流下確保のため河床掘削を見込んでいましたが、詳細な形状については検討中であり、護岸を見込まない設計としていました。今回、重要種の保護を踏まえた詳細な掘削形状の検討を行った結果、左右岸両方に護岸が必要となったため、追加しています。

◆：治水事業費指数を令和 5 年度以降同じ値で見込むことの妥当性確認

●：事業評価においては治水事業費指数の公表時点（令和 5 年）以降は同値を踏襲することとされています。委員から頂いた「現実の物価動向を適切に反映すべき」とのご意見については、九州地方整備局にも伝えます。

◆：感度分析の「事業費」「工期」「資産」が複合的に変動した場合について確認

●：複数要因が同時に悪化した場合であっても、B/C は 1.0 を十分上回るものと考えられます。

◆：審議の結果、学識者懇談会として、「大分川水系直轄河川改修事業については事業継続」を了承する。